

令和元年度 第1回「防災スペシャリスト養成」企画検討会

議事概要

1. 検討会の概要

日 時：令和元年6月3日（月）10：00～12：00

場 所：中央合同庁舎8号館4階 407-2 会議室

出席者：林座長、井ノ口委員、岩田委員、宇田川委員、鍵屋委員、国崎委員、黒田委員
重川委員、中林委員、丸谷委員
海堀政策統括官、小平審議官、安邊参事官、西村企画官、小林参事官補佐

2. 議事概要

(1) 今年度の検討内容について

- 今年度の検討内容について了承。

(2) 「防災スペシャリスト養成」研修に関する報告

- （修了者アンケートについて）研修の改善点をより明らかにするために、質問項目をもう少し工夫してもよい。受講前の「学びの目標」と「実際に学べたこと」、「目標と実際に差が生じた理由」、「よりよくなるためにどうすればよいか」といった回答を得れば、改善点が明確化される。
- 危機管理監などを含む管理職と一般職とを分け、それぞれの受講状況を集計すれば、役職別に受講の傾向が見え、また研修効果を考える上でのポイントが明らかになるのではないかと。
- 女性の参加傾向について引き続き整理するとよい。有明の丘研修の各コースの女性の受講者の割合が低ければ、女性の参加を促す仕組みの検討が必要となる。

(3) 地方プログラム等検討の進め方

- 地方プログラムは、国の制度等の変更に伴う内容の見直しなど、国において継続的なメンテナンスをしていく必要がある。
- 特定の地域ブロックの中の自治体で地域研修の運営ノウハウを引き継ぎながら持ち回りで行うなどの考え方もあるのではないかと。
- 地域研修を実施する自治体が行う参加募集は、隣接の自治体にも行うなど、防災を学ぶ機会の拡大を図るのがよい。
- 地域研修への応募にあたり、研修内容の一部を自前で行うことを望む自治体にお

いては、その分の予算確保が必要となるため、募集要項を早く知ることが不可欠となる。そのため、募集内容を早目に周知できるとよい。

(4) 防災 SP 研修の評価・改善の仕組みの確立

① 組織ヒアリング調査結果の報告

- 組織ヒアリングで得られた好事例を、自治体の規模別の事例として整理できれば、所属する自治体の規模に応じた事例として参考としやすいのではないか。
- 新任者に対し最低限のことを学ばせたいというニーズが市町村に多い。

② 研修の改善のための分析の方向性

- 研修の時間配分の変更を求める指摘があるが、2日間のコースの流れと各単元の時間配分をどうするかということは、必要に応じ、各コースで改善していけばよい。
- 防災スペシャリスト養成研修を、組織の人材育成計画に組み込んだり、初任者研修に活用したりするなどの好事例を、募集チラシやホームページ等で紹介すればよいのではないか。職員を研修に派遣することが組織の能力向上につながるというイメージが生まれれば、研修全体がより活性化するのではないか。
- アンケートやヒアリング結果として挙げられているコースごとの改善事項は、防災研修コーディネーターを中心に、反映できるかどうか検討するのがよい。
- アンケート結果としてフォローアップの充実や、最新事例・具体事例を求める要望があるが、毎年フォローアップ研修を実施しており、被災地の現場の声や具体事例を聴ける場となっている。このフォローアップ研修をどのように内容を充実させていくかも今後検討すべきではないか。
- 講師・修了者のプロフィールをまとめ、共有することは、人的ネットワークの活性化につながるのではないか。